

特集 NCSE（非痙攣性てんかん重積状態）

企画 本誌編集委員会

特集の意図

NCSE は、シャルコーの報告した症例にもみられるといわれ、決して新しい病態ではないが、現在は神経救急の領域から注目が集まっている。定義と分類が未確定であり、認知度は低い、症例数が多く、また治療し得ることから、NCSE の存在を少しでも多くの人に知ってもらおうと本特集を企画した。

特集の構成

1. 【鼎談】NCSE（井上有史×永山正雄×河村 満） 本特集の内容を一掴みにする鼎談。NCSE について知っておくべきポイントを総ざらいする。
2. 非痙攣性てんかん重積状態に関する諸問題 — 臨床と研究の進歩（永山正雄，他） NCSE の現時点での基礎的知識を整理し、特に神経救急の観点から臨床上注意すべきポイントを紹介する。
3. 高齢者てんかんと認知症の関連（石垣征一郎，他） てんかんは小児とともに高齢者での発症が多いことが最近の調査でわかっており、超高齢社会においてその重要度は増している。本稿では、NCSE に関連して、抗てんかん薬投与により改善を示す認知症様の高齢症例について自験例を挙げながら解説する。
4. 神経救急における NCSE（高橋 恵，他） 全身痙攣性てんかん重積状態（GCSE）と NCSE は異なる疾患として扱われることが多いが、神経救急の現場においては両者の混在がみられることに注意が必要となる。GCSE から NCSE へ移行した自験例を紹介する。
5. 非痙攣性てんかん重積状態の脳波所見（久保田有一，他） NCSE を診断するにあたり、脳波は決定的な証拠となりうる重要な所見である。本項では、神経救急の現場における、持続脳波モニタリング検査について、セットアップから判読まで、自施設での経験を実際の脳波所見を示しながら概説する。
6. 環状 20 番染色体てんかん症候群と NCSE（廣瀬源二郎） NCSE を呈する代表的な疾患として環状 20 番染色体てんかん症候群がある。本疾患は小児期に発症し、NCSE を主たる症状とし、難治性である。臨床的特徴や脳波所見を中心に本疾患の概要を整理して紹介する。